

# 銀杏

発行所

〒792-0835  
新居浜市山根町8番1号  
曹洞宗瑞應寺専門僧堂  
編集発行人 村上 徳 存  
電話(0897)41-6563  
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行  
(振替 01330-2-31918)  
瑞應寺  
印刷所 東田印刷株式会社

## コロナ禍中

——日々是好日——

住職 村上 徳 存

十一月の声を聞くと、気候に従って景色も、そろそろ冬支度に入る季節です。境内の大銀杏も、多くの実を落して、黄葉一色となり、本堂横の境内は一面の黄金の浄土を現出します。

一昨年より続いていた、コロナウイルス感染症も、ワクチンの接種も行われて、少し落ち着いた様子で、緊急事態宣言も、九月末で解除となり世の中全体少し良い方向に向かっているのでしょうか。

東堂老師始め、役寮・大衆共々約二十名の者も、住所地

に帰って、ワクチン注射する者あり、市内の施設で注射する者ありであるが、幸い、感染罹災した者はなく何とか無事である。

山内の行持はさること乍ら、山外の一一般檀信徒との接触の多い事であるので、感染症に対してはそれなりの予防措置を講じている。入口の消毒液、マスク着用等である。「日々是好日」である事を祈っているのである。

『碧巖録』第六則に「雲門日々是好日」の公案がある。雲門文偃禪師(八六四)

九四九)は、黄檗の弟子の睦州道縦の処で大悟し、雪峰義存の嗣法をしている。同光二(九一三)年、雲門山に入山、禪宇を建立、千人の大衆を接し、光泰禅院の勅額を賜わり、雲門山に住すること三十年、匡真大師と諡されて、雲門宗の開祖とされる。

「雲門、垂語して云く。」

「十五日已前は、汝に問わず、十五日已後一句を道い將ち来たれ。自ら代わって云く、日は是れ好日。」が本則である。

「日々是好日」は禅語としてよく知られた一句である。

禅門では、夏安居が終る、七月十五日に上堂している。その時に、垂語せられた言葉と推測される。十五日以前は安居中で、問題はないが、十五日以後は如何に過ごすか、問題である。

雲門大師は大衆に代わって、「日々是れ好日である。」と述べられた。毎日を如何に過ごすべきか?それは修行者のそれぞれの問題である。

雪竇禪師は頌で、「唯一絶対の世

界にとどまらず)

「七を拈得ず。」(多種相對の世界を受け入れる。)

「上下四維、等匹なし。」(全宇宙に、匹敵するものがない。)

「除ろに行いて踏断す流水の聲、縦に観て映し出す、飛禽の跡。」(水となり切り、鳥となり切る妙悟の世界)

「草茸茸、煙霧。」(草が生え放題、有の世界、煙もうもう、無の世界。)

「空生巖畔、花狼藉。」(無と云えはなしとや人の思

うらん呼べば答ふる山彦の声。)

「彈指して悲しむに堪えたり舜若多。」(有と云えば、あるとや人の思

うらん、尋ねてもなし、山彦の声。)

「動著すること莫れ、動著すれば三十棒」(日々是

好日といわれる世界は、空とか無とか呼ばれる処にとどまっているものではない。)

コロナ禍の中に依って、自粛し、歸家穩坐、仏道は人々の脚跟下に依り、自受用三昧に端坐し、工夫が必要であらう。

合掌



住友供養

テレホン法話 〇八九七 四一・〇〇三三  
**禅のたより**



◆ **わたつしや幸せじゃわ**

四国四県どこの県も同じだと思いますが、特に香川県は弘法大師のお生まれになったところですので、お家の宗旨とは別にお大師さん(弘法大師空海)への信仰をお持ちの方が多勢おられます。

二十年ほど前に百二歳の長寿を全うされた檀家のおばあさんも、そんな方のお一人でした。毎月十日、先立たれたおじいさんの月命日にお伺いすると、お経の後はお仏壇に供えられたお霊供膳と同じ献立のお膳が出来ます。その日のお昼はおうちの方も、みんな同じメニューです。おそらく何代も前からそうやって、ご命日にはお精進を食べてこられたのでしょうか。

んは毎月二十日の昼を過ぎると肉魚は一切口にせず、煮物を始めお汁のダシに至るまで肉や魚を使つたものは食べなかつたことです。

お嫁さんや若い方がついうっかり肉や魚のお料理を作つても、怒つたり叱つたりはしません。お漬け物だけでご飯を済ませ、ササツと奥に引つ込みます。他のものには一切手をつけません。ご家族は顔を見合わせ「あつー明日はお大師さんの日や!」と。そうです。毎月二十一日はお大師さんのお命日で、前日の二十日のお昼から精進潔斎していたのです。お嫁に来てから八十年、ずっとそうやって暮して来たのです。

そしてもう一つ。おばあさんは若い頃、目を患っていました。すがる思いで、眼病平癒で有名な島根県の一畑薬師さんに願を掛けた

のです。どんな願掛けだったかという、「目を患つて以来、目に良いといわれる鰻の肝をよく食べているので、毎月八日のお薬師さんの御縁日に鰻を川へ放生(放流)する」ということでした。最近ではすっかり見かけなくなつた手押し車の魚屋さんに頼んで、鰻を毎月持つてきてもらつて近くの川へ放していました。その甲斐あつて、目がよく見えるようになったから、亡くなるまでずっと続けました。

足が弱つて歩くのがままならなくなつてからは、魚屋さんに川で放してもらつて、代金だけ渡していたそうです。

明治生まれのおばあさんは戦前、戦中、戦後と、激動の時代を生き抜いて、大変な苦勞をしてきたに違いありません。しかし、口癖のように「わたつしや、幸せじゃわ」といつていました。そして

続けて「こうやってご先祖さんに手を合わせてもらえて、お大師さんにはすぐ近くで守られて、目を患つたお陰

で、お薬師さんともご縁ができて」と。まさに信仰に救われた人の言葉ですね。

心の行き場を失いそうになつたとき、そつと手を合せてみてください。あなたのことを見守つてください。優しい眼差しに気が付くはずですよ。

香川県南隆寺 大石光昭師  
令和三年九月十一日〜二十日

◆ **なくてはならない存在**

皆さんハリガネムシってご存じですか? カマキリなどの昆虫に寄生する虫の名前です。小さい頃上級生が、カマキリを捕まえて「おい! 見よれよ」といつて、カマキリのおしりを水に浸けると、その先から黒くて細長い、まさに針金のような虫がニョロニョロと出てきて驚いたものでした。

去年のお彼岸前、飼っている犬がカマキリを捕まえて啣えていました。カマキリは水には浸かつていたわけではないのですが、絶命していた

からなのか、おしりからニョロニョロとハリガネムシが出てきていました。それを見て小さい頃のことを思い出し、なつたのでちよつと調べてみました。

すると、神戸大学の佐藤先生という方が調査研究をしていて、このハリガネムシも生態系のなかではなくてはならない存在だと判明したのでそうです。

どういう事かという、ハリガネムシに寄生されたカマキリやカマドウマは脳の中に、ある種のタンパク質が送り込まれ、池や川などの水辺の方へと導かれます。そして最後には、川の中に飛び込まされてしまうのです。

それを待ち構えているのがイワナやヤマメなどサケ科の魚です。この魚たちの年間摂取エネルギー量の六割は、夏から秋にかけて水に落とされたカマドウマなどで占められていたそうです。陸上の虫が水に飛び込

むことで、川の中の水生昆虫は、あまり魚に食べられなくなり数が増えます。そうすると、川に生える苔や藻だけでは餌が足りなくなつて、川底の落ち葉がどんどん食べられ、分解されていきます。

次に先生たちは、実験的に川のそばでカマドウマヤカマキリが水に入れないようにしてみました。魚の餌になつていた陸上の虫が落ちてこないのが餌が減つて、水生昆虫がより多く食べられてしまいます。数が減つた水生昆虫たちは藻だけで餌が充分足りるので、落ち葉を食べなくなりません。そうすると落ち葉の分解が遅れてしまい、生態系に変化が生じてしまったそうです。

佐藤先生によつて、世界で初めてハリガネムシのような寄生虫でも、チャンと生態系に寄与していることが証明されたのです。

寄生虫ですら…という「おまえら人間のように環境破壊はしないぞ」とハリガネ

ムシに言われそうですが、敢えて、寄生虫ですら、この大自然のなかでなくてはならない存在です。

私たち人間、一人一人だつて同じです。気が付かないところでどこかの誰かを、どこかの何かを支えているに違いありません。人のためじゃなくて良いんです。何も出来ないときは、何もなくても良いんです。そこにいるだけで、誰かを支えているということもあります。人間だけれど、なくてはならない存在なんです。

香川県南隆寺 大石光昭師  
令和三年九月二十一日〜三十日

### ◆ 香りに包まれて

「香り」は古くから日本人に馴染みのあり、現存する最古の歌集『万葉集』にも「かぐわしい花の香り」と記載があるほどです。かつては匂いを楽しむことは高貴なたしなみだと考えられていたため、「香」が意味する「かぐわしい」という言葉の中には良い香りを

身にまとう「美しい人」などの意味合いも含まれています。

また、仏事において香は、欠かす事のできない大切な供物。あらゆる法要で線香が供えられ、焼香がなされます。もちろん法事・葬儀においても同様です。

『大般涅槃経』と言われる昔の書物の中にお釈迦様のご葬儀の際にも香が用いられた事が述べられています。

仏様は香を好まれ、香を焚くその香りが縁となつて、香が焚かれるその場所に降臨される。仏教にはこのような信仰があります。

また、香が仏教においていかに重んじられているかは、その言葉の用いられる頻度を見ても一目瞭然です。例えば修行僧がいる禅寺の食事では、ご飯のことを香飯、汁物は香汁、おかずは香菜、お茶は香湯と呼ぶなどまさに『香』づくし。

はるか昔のインドにおいても、香は仏教が生まれる以前から生活の必需品として人々に愛用されてきました。焼香

して部屋を清めたり、体に塗つて匂いを消したり。実用性はもちろんのこと、それらは来客を招く際の大切な礼儀でもありました。

さらに仏教では、香を焚いたその香りによつて邪気を払い空間を清める事ができると考えます。つまり葬儀における焼香には、故人を清浄な仏様として送るという意味や、葬儀場という空間を清らかで

荘厳なものにするという意味、葬儀場に諸々の仏様をお招きするという意味などが含まれているのです。

故人の成仏を祈りまごころを込めて焚く香は故人だけでなく焼香をする本人の身心をも清浄で穏やかなものへと導いてくれることと思います。

瑞應寺専門僧堂 知殿 小林 圭太  
令和三年十月一日〜十日

### 白眉殿進捗状況

写真の通り工事が進んでおります。





■ 兩祖忌

九月廿九日(水)は、高祖道元禪師、太祖瑩山禪師の御征忌にあたる。前晩は特為献湯、当日に献粥諷経、正當献供諷経が如常に行われた。

■ 中国人殉難者慰霊祭

十月一日(金)、瑞應寺墓地内の慰霊碑前にて、中国人殉難者慰霊祭が、小林知殿導師のもと厳修された。当日は晴天に恵まれ、参列者共々供養を行った。

■ 住友供養

十月五日(火) 毎年恒例の住友供養として、別子銅山殉職者並びに、新居浜住友連系会社殉職者の追悼法要が開催された。村上山主、慶正寺様、真光寺様の三導師、合山清衆随喜にて施食供養、連系十一社代表による焼香、回向中の読立供養にて殉職者諸精霊の大法要が厳修された。



住友供養



住友供養(読立)

十月の日鑑

一日	祝禱 中国人殉難者慰霊祭
五日	住友供養
六日	参玄会(七日迄)
十五日	祝禱・略布薩
十八日	観音講・勉強会
廿一日	略布薩
十一月の予定	
一日	祝禱
九日	参玄会(十一日迄)
十四日	金毘羅秋大祭
十五日	祝禱・略布薩
十六日	配役行茶・入寺式
十七日	土地堂念誦・庫司点湯
十八日	小参・人事行札
廿一日	観音講・勉強会
廿四日	自彊舎益友会秋季法要
卅一日	略布薩

银杏感謝録

- 北海道 田崎正倫 殿
- 鳥取県 祥雲寺 殿
- 大阪府 千葉弘二 殿
- 岡山県 円通寺 殿
- 京都府 嵩山堂はし本 殿
- 愛媛県 宗安寺 殿
- 熊本県 梶原和行 殿
- 神奈川県 小林迪子 殿
- 京都府 宇津三喜男 殿
- 広島県 妙楽寺 殿
- 長野県 我妻忠夫 殿

(令和三年八月二十一日受付迄)



鐘声

『照顧脚下』お寺では、東司(トイレ)や靴箱などでこの言葉が書かれた木札をよく目にいたします。この言葉の意味といたしましては、足もとに注意しなさい。転じて履き物をきちんとそろえなさいということでありますが、自己反省の意味があり、自分自身に言い聞かせているものです。何事も自分の足もとから正していかなければいけないと教えてくれているのです。

冬制中まであと一ヶ月ほどとなりました。自分の足もとから気を引き締め、日々精進していきたいと思えます。(方行英俊)

瑞應寺専門僧堂

安居者募集

安居を希望される方には、掛塔志願書を送付致しますので、左記にご連絡下さい。

〒792-0835 愛媛県新居浜市山根町八一  
電話(〇八九七)四一・六五六三  
FAX(〇八九七)四〇・三一二七



僧堂内朝課